

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 沖中 洋介

〔題名〕

重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者における画像所見の変化について

〔要旨〕

背景: 好酸球性副鼻腔炎 (ECRS) は、難治性の II 型炎症を特徴とする慢性疾患であり、しばしば重症喘息を合併する。既存治療に抵抗性を示すことも多く、新たな治療選択肢の確立が求められている。抗 TSLP 抗体であるテゼペルマブは重症喘息に対して幅広い有効性が報告されているが、ECRS に対する効果は十分に明らかではない。本研究では、重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者における臨床指標および画像所見の変化を後方視的に検討した。

方法: 2022～2024 年に当院で重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者 7 例を対象とした。末梢血好酸球数、呼気 NO (FeNO)、総 IgE、肺機能検査結果などの臨床データと、副鼻腔 CT による Lund-Mackay スコア (LMS) を治療前および投与 6 か月以降で評価した。

結果: LMS の中央値はベースラインと比較して 6 か月以降に低下傾向を示したが、統計学的有意差には至らなかった ($p = 0.051$)。一方、末梢血好酸球数、IgE、FeNO、FEV₁/FVC 比については有意な変化は認められなかった。

結論: 重症喘息を合併する ECRS 症例において、テゼペルマブは副鼻腔病変改善の可能性を示唆したが、症例数が少ないこともあり有意差には至らなかった。より大規模かつ長期的な検討が必要である。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

令和 8 年 2 月 26 日

報告番号	医博乙第 1116 号	氏名	沖中 洋介
論文審査担当者	主査教授	松 永 和 人	
	副査教授	伊 東 克 能	
	副査教授	菅 原 一 真	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者における画像所見の変化について			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Radiologic Improvement in Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis During Tezepelumab Therapy for Severe Asthma: A Case Series (重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者における画像所見の変化について)			
掲載雑誌名 Medical Science & Innovation 第 73 巻 第 1-2 号 P. ~ (2026 年 6 月 掲載・掲載予定)			
著者 (全員を記載) Yosuke Okinaka, Kazuma Sugahara, Youhei Yamamoto, Yosuke Takemoto, Junko Tsuda, Mei Sakamoto, Tatsuya Masaki, Shogo Nishimura, Tomoyasu Yamagata, Satoshi Nomura, Makoto Hashimoto			
(論文審査の要旨)			
<p>背景: 好酸球性副鼻腔炎 (ECRS) は、難治性の II 型炎症を特徴とする慢性疾患であり、しばしば重症喘息を合併する。既存治療に抵抗性を示すことも多く、新たな治療選択肢の確立が求められている。抗 TSLP 抗体であるテゼペルマブは重症喘息に対して幅広い有効性が報告されているが、ECRS に対する効果は十分に明らかではない。本研究では、重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者における臨床指標および画像所見の変化を後方視的に検討した。</p> <p>方法: 2022~2024 年に当院で重症喘息に対してテゼペルマブを投与された ECRS 患者 7 例を対象とした。末梢血好酸球数、呼気 NO (FeNO)、総 IgE、肺機能検査結果などの臨床データと、副鼻腔 CT による Lund-Mackay スコア (LMS) を治療前および投与 6 か月以降で評価した。</p> <p>結果: LMS の中央値はベースラインと比較して 6 か月以降に低下傾向を示したが、統計学的有意差には至らなかった ($p = 0.051$)。一方、末梢血好酸球数、IgE、FeNO、FEV₁/FVC 比については有意な変化は認められなかった。</p> <p>結論: 重症喘息を合併する ECRS 症例において、テゼペルマブは副鼻腔病変改善の可能性を示唆したが、症例数が少ないこともあり有意差には至らなかった。より大規模かつ長期的な検討が必要である。</p> <p>本研究では、重症喘息を合併する ECRS に対する抗 TSLP 抗体テゼペルマブの臨床的有用性を画像所見を含めて検討し、その治療効果の可能性を示した点に新規性と意義が認められる。以上より、本論文は学位論文として価値あるものと認めた。</p>			

備考 審査の要旨は 800 字以内とすること。